

高齢化の進んだ過疎の町、秋田県の鷹巣町（現北秋田市）を初めて訪ねたのは、1992年3月のこと。日本の貧しい水準をさらに下回る8人難居の特別養護老人ホーム、認知症の人は精神科病院か、鍵をかけた自宅の中でした。その町が、数年で全国から視察が相次ぐ「福祉の町」に変身しました。

町民の提言で生まれた老人保健施設は、トイレ付き12畳ほどの個室。8室ずつ茶の間を取り囲み、起きたい時間に目を覚まし朝食。「個室ユニットケア」が制度化（2003年）される4年も前のことでした。しかも、在宅ケアに戻るための拠点でした。それを可能にしたのは、93年に始まったホームヘルパーの24時間巡回サービスや、99年に始まつた365日3食の食事配達、身体に合わせた補助器具、送迎サービスの充実でした。厚生労働省が今、施策の目標としている「地域包括ケア」が、21世紀を前に実現していたのです。

きっかけは、24年間の長期政権を僅差で破った新町長、岩川

徹さんの登場でした。岩川さんは「地域包括ケア」が当たり前のデンマークを町民とともに訪ね、一般会計の3%を介護保険に上乗せしたのでした。

その鷹巣町が「普通の町」になつたのは、03年の町長選で「町合併すれば特例債1200億円が入る」「個室はもったいない」と唱えた候補に岩川さんが敗れてからのことでした。さら

## 地域包括ケアの先駆者

秋田県鷹巣町 元町長の取り組み

大熊 由紀子 国際医療福祉大大学院教授

私の社会保障論



1カ月前の6月に、厚労省の

局長、村木厚子さんが、虚偽有

印公文書作成の容疑で逮捕されましたが、2人にはいくつもの共通点がありました。まず「身體に覚えがない」と否認し続けた結果、岩川さんは368日、村木さんは164日も勾留されました。第二は、検察のストーリーに沿つて作成された「証拠」の供述調書が、後に法廷で全面的に否定されたことです。

しかし、2人の運命は大きく分かれました。村木さんは無罪判決を勝ち取り、現在も政府の中で活躍していますが、岩川さんは無念な結果となり、再審の道を探っています。

岩川さんが、町長時代に鷹巣町が実現した「介護が必要な人を、日曜・祝日も休まず365日支え切る」ことは、今見ても先進的なことでした。地域包括ケアの成否を握るのは、質のいい扱い手の確保。「手厚い人手に渡した月15万円、2カ月分のアルバイト代が「選挙運動」の買収とされ、逮捕されてしまったのです。

1カ月前の6月に、厚労省の



地域包括ケア

税と社会保障の一体改革で提起された理念。30分以内に駆けつけられる、中学校区ほどの圏域を基本に、24時間対応の在宅医療、訪問看護、定期巡回・随時対応サービスを創設。見守りや配食、買い物など多様な生活支援サービスの確保や権利擁護で、1人暮らしや高齢夫婦のみ世帯を支えることを目指す。